

(大豆営農情報 6月号)

福岡大城農業協同組合  
南筑後普及指導センター

## 1 ほ場の準備

- 播種された大豆種子付近に麦わらが多量にあると、乾燥による発芽ムラを起こすことがあります。麦わらは、できるだけ均一にすき込みましょう。
- 最適な生育環境である pH6.0～6.5 の土壌づくりのため、耕起前に土壌改良剤を散布します。  
(炭酸苦土石灰ならば100kg/10a)
- 播種前雑草対策として、ラウンドアップマックスロードを100～200倍希釈、もしくはバスタ液剤を、200倍希釈で散布します。
- 耕起後は速やかに播種を行います。耕起後降雨があると、しばらくほ場が乾かず播種が遅れたり、逆に晴天が続くと、過乾燥で大豆が出芽しなかったり、出芽が遅れたりします。

## 2 播種

- 種子消毒は、キヒゲンを種子10kg 当たり100g 混和します。
- 播種は、7月上旬から開始します。適期は7月10～20日です。天候を見ながら、地域内で一斉播種を行いましょう。
- 適期播(7月上中旬頃)の場合、播種量は3～4kg/10a、株間は20～30cm(1株2粒播)とします。  
早播きの場合や播種量が多い場合は、倒伏する恐れがあります。
- 降雨等により遅播(7月下旬頃)になる場合は、生育量を確保するため、播種量は6～8kg/10a、株間は15～10cmとします。
- 播種深度は3cmを基本とします。事前に雨が予測される場合はやや浅め、晴天が続くと予測される場合は深くします。特に梅雨明け以降に播種した場合、晴天が続き、乾燥による出芽不良が生じることがあります。梅雨明け以降に播種する場合は、やや深めの播種深度(5cm程度)を心がけます。
- 大豆は通常、播種後1週間以内で出芽します。降雨等による出芽不良を判定する場合の目安とし、出芽不良の場合は播き直しを行いましょう。

(裏面につづく)

### 3 雑草防除

大型ヒユ類やホオズキ類に対しては、ラクサー剤が高い効果を示します。ただし、これらの雑草は、除草剤だけでの防除は難しいため、中耕培土を適期に行うなど、耕種的防除を心がけて下さい。

使用時期	薬剤名	10aあたり使用量	希釈水量
播種直後 (雑草発生前)	ラクサー粒剤	4～6 kg	—
	サターンバアロ粒剤	4～6 kg	—
	ラクサー乳剤	400～600 ml	100リットル
	サターンバアロ乳剤	600～800 ml	100リットル

※土壌が乾燥している場合は、希釈水量を増やします。

#### ○大型ヒユ類

イヌビユやホソアオゲイトウ等の種が存在するが、いずれも大豆よりも草丈が高く、成熟すると茎が赤くなるものが多い。収穫の際にコンバインに巻き込むと、茎の汁で大豆が汚れる。



↑<イヌビユ幼植物>



<ホソアオゲイトウ>→

#### ○ホオズキ類

ヒロハフウリンホオズキや、イヌホオズキ等の種が存在するが、草丈は大豆と変わらない程度。収穫の際にコンバインに巻き込むと、茎の汁で大豆が汚れるほか、果実が大豆に混じる。

(写真は大豆栽培こよみに記載されています)

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!**